

# ～児童・生徒と地域の大人の対話会～

県民あげて取り組んでいる“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動においては、学校、家庭及び地域が連携して、「いじめ・非行を許さない」環境づくりを進めることとしています。また、その一環として、児童生徒がいじめの防止・根絶や、自分たちの生活を整えることについて、地域の大人とともに主体的に考え、また具体的に取り組む契機とするため「児童・生徒と地域の大人の対話会」を実施しています。今回は河北町で今年はいじめて開催された様子を紹介します。

## 地域貢献活動を考える

### ふれあいトーク河北2025

2月12日(木)河北町役場で、ふれあいトーク河北2025が行われました。河北町青少年育成町民会議(会長砂田哲氏)が開催したもので、参加したのは、河北中学校と谷地高等学校の生徒それぞれ10名、町民会議役員5名の計25名で、今年度初めての開催です。具体的な地域貢献活動について、中高生と町民会議が一緒になって考え、住みよいまちづくりの活かししていきたいと河北町教育委員会の協力を得て開催されました。

まず初めに、各校から活動の事例を報告してもらいました。谷地高校ではメディア地域探究部(地域探究班)が、「かほくうまいもの横丁」での出店や地元酒造会社と連携した新商品の開発など、地域との絆を活かした多彩な活動を紹介。活動を通して、地域を理解する力、魅力を発信する力、課題を解決するための考える力、「コミュニケーション能力など、自分自身の大きな成長を実感できた」と発表してくれました。

河北中学校では、「どんがまつり」への参加、「中央公園の清掃活動」、「おはようプロジェクト」(出身小学校でのあいさつ運動、今年度は熊出没で中止)「河北町児童動物園」の壁画プロジェクトなど、体験を通してふるさとの魅力を味わうとともに自分から進んで物事にチャレンジする主体性や、努力と協力によって困難を乗り越えながらたくましく生きる力と、社会の中で自己実現する喜びを体感したと発表してくれました。

その後、地域貢献活動について、河北町を「楽しくて住みや

すいまち」にするためにはという視点で、参加者全員でアイデアを出し、グループワークして発表するワークを中心に進行。現在行っている活動を基本にしながら、自分たちができること、やってみたいことと、中高生が共同でできる活動の両面から可能性を検討しました。

提案された内容は、『交流・イベントの拡充』、『地域資源の活用・ブランド化』、『中央公園や公共スペースの活用』、『Instagramを活用した発信・PRの強化』、『河北中と谷地高の連携強化』など、地域との強い絆を土台にした、若者らしい多彩な意見が出されました。

町民会議、砂田会長は、「発表された内容には、町への要望事項などもありましたので、それを整理し共有したいと思います。今日様々意見が出されましたが、自分たちが楽しいと思うことを考え、作り、進んでやっていくことが一番重要だと思っています。貢献活動やボランティア活動は、困っている人を助けるということだけではなく、何をするか考えたり活動したりすることそのものが、自分の心を結果的に耕していくことにつながります。若い時期にいろいろ経験して欲しいと思います。今回は、高校生ボランティアサークルなども交えて夏休み中に開催したいです。」と、今回の対話会に手ごたえを感じ、二回目の開催に意欲を示していました。

